

まっかぜ

平和学園小学校
同窓会連絡誌

茅ヶ崎市富士見町5-2
電話 0467 (82) 0093

同窓生の皆様お変わりございませんか。皆様の心の奥底には、平和学園での学びの暖かい思い出と誇りをもって、それぞれの職場にまたご家庭に、学業にとお励みのことと思います。

今年には平和学園創立四十周年の記念すべき年を迎えます。林間学校を前身として小学校が先ず誕生し、平和女学校、中学校、幼稚園と発展し、現在全学園の幼児児童生徒数は一七〇〇余名の多数となり、幼小高と各部の発展に見るべきものがあります。四十周年を記念して、先ず建学の精神に思いをはせて再確認することを第一に、十一月一日(土)に記念式典及祝賀会、十一月十五日(土)黒柳徹子さんを招いての記念講演が予定さ

れ、質川村島記念講堂には待望のパイオルガンが設置され、四十周年を飾るにふさわしい充実を見ることは喜びにたえません。小学校も一年生二十八名を迎え、児童数一二〇名と

中心となる高学年児童が極端に少なく、うまく運営できるかと前々から心配していましたが、高学年の一人一人が自覚してその責任を果たし、足りない所は四年生が私達も学校の柱との自覚で補って活躍し、PTAから精神的、経済的に応援をいただきつつ、内容的には若々しさをもち、層の薄さを補い、生き生きとした学校運営がなされていますのでご安心下さい。

来校下さい。今年には職員との異動はなく、十一名の職員と講師の先生方で指導しています。それぞれの先生が、特色ある賜物と指導力をお持ちで、対外的には、リコーダークラブが、県のコンクールに入賞。私立小水泳六年リレー入賞。県書写検定優秀賞をもらい、特活は茅ヶ崎市音楽会で見事な演奏を披露し、市内数幼稚園に招かれて発表します。

来校下さい。今年には職員との異動はなく、十一名の職員と講師の先生方で指導しています。それぞれの先生が、特色ある賜物と指導力をお持ちで、対外的には、リコーダークラブが、県のコンクールに入賞。私立小水泳六年リレー入賞。県書写検定優秀賞をもらい、特活は茅ヶ崎市音楽会で見事な演奏を披露し、市内数幼稚園に招かれて発表します。

これからの行事

創立四十周年 建学の精神に立ち帰って

小学校長 笠野 欣 二

平和学園本来の姿に戻って参りました。五六年前の応募者激減当時の児童も、五年の高学年となり、六年九名、五年十二名です。今年には学校運営、児童会、クラブ、委員会、特別活動の

四十周年記念として、運動会は大ブレイダーとして、児童と父母が共に参加する行事に、十月二十五日(土)例年の如く、学芸会及びPTAのバザーが準備されていますので、皆様も是非ご

来校下さい。今年には職員との異動はなく、十一名の職員と講師の先生方で指導しています。それぞれの先生が、特色ある賜物と指導力をお持ちで、対外的には、リコーダークラブが、県のコンクールに入賞。私立小水泳六年リレー入賞。県書写検定優秀賞をもらい、特活は茅ヶ崎市音楽会で見事な演奏を披露し、市内数幼稚園に招かれて発表します。

秋のブレイダー学芸会・バザー
62年度新入生面接
40周年記念式典
クリスマス
もちつき
席書大会
スケート教室
17〜16年スキー教室
マラソン大会
送別会
卒業式

ことしは、学園創立四十周年です。昔とは大分さま変わりした母校を見にきてください。

雷 雨

S 26卒 加藤 昌男

毎年夏になると、内房の石油コンビナートに隣接した防波堤に黒鯛の夜釣に出掛ける。夕方六時頃船で渡り、迎えの船が十時に来るまでの四時間ばかりの釣である。昼間の暑さに比べて夜の防波堤は、如何にも涼しく快適な時を過ごせる。

これで魚が思うように釣れば言うことはないのだが、この黒鯛というやつ、なかなか釣れないのである。

三四年前の、たしか七月の末であったと思う。例によって夕方防波堤に渡った。太陽はまだ落ちてはいないが、東京湾の向こうに、雷雲であろうか黒っぽい雲があつて太陽を隠していた。

そして時々その雲の彼方で白く光るのは稲光であろう。潮の動きも良さそうだし、風も適度にあつて釣には絶好と思えるのだが、空模様

が気になって、どうも落着

いて釣が出来ない。元来、地震と雷と政治家は、どうにも好きになれぬ。ましてこんな場所で雷に遇つてはたまつたものではない。

辺りが暗くなつた頃、風が止んだ。風がないところという場所でもむし暑い。魚も一向に釣れる気配がなかった。稲光は相変わらず続いている。かなり遠くの方に思えるのだが……。

暫くすると一陣の風がきた。水面に細かい波が走る。それまでの風が嘘の様に風はだんだん強くなつた。これは間違いなく雷雨の前触

である。急いで合羽を着た。まわりを見ると四五人が同じことをしている。合羽を着終わる頃早くも雨が落ちてきた。落ちてきたというよりも、風と共に飛んで来たという感じだ。そしてすぐにはぶちまける様に降り出した。どこにも逃げ場はない。やむなくその場に蹠

た。雨が背中で音を立てている。まるで小砂利でも投げかけられている位の衝撃

がある。海は狂った様に荒れ始めた。そして突然、真上で二三度光ると物凄い雷鳴が轟いた。振動で体が揺れた様な気がした。

真夏である。雨なんかいくら降つたつて何ということはない。しかし、こういう場所所で頭上で雷に暴れられたのではどうにもならぬ。生きた心地がしない、というのはこのことだろう。何故か、かつての日、空襲警報のサイレンと共に、防空壕に駆込んだことを思い出したりした。

結局、迎えの船が来る迄の約三十分間、風と雨と雷にはしいまま蹂躪され、蹠つたまま全く為す術がなかった。船も普通なら十二三分の航程を倍以上かかったらしい。大きく揺れ動く船にやっと乗り移つて船室に駆け込んだ時、身体中の力が抜けた。

陸に上がつてから、船宿の者に「防波堤は雷は大丈夫ですよ、まわりに高いものが沢山ありますから」と

簡単なものである。たしかに、コンビナートに隣接した防波堤であるから、コンビナートの敷地内には煙突やら何やら高いものは沢山ある。しかし、片側は海なのだから、「まわりに」というのは嘘である。ゴルフ場だつて落雷でゴルフが難に遇つことがあるのだから、簡単に「大丈夫ですよ」といわれても、どうももう一つ信用出来ない。まさか雷に聞いた訳でもあるまい。ともかく、その夏はそれっきり夜釣りには行かなかった。よ程怖気付いたというべきだろう。

現在でも、雷雨があるかもしれないという予報の出ている日は、行かないことにしている。

たけしくん ハイノ

S 31卒 堀 剛

平和学園にお世話になつたのは幼稚園からで確か2回生である。家の近くに友達がいなかったせい、自

分一人で入学願書を持参し、次の日から毎日通い始めてしまった。姉がこれを持って行けば入園できると母に話していたのを聞き、白紙のままこっそり持つて行ってしまったのである。今思えば、当時の大橋牧師夫人の寛大な処遇に感謝している次第です。それ以後自由に遊ばせて頂き度が過ぎて幼稚園で二度、小学校で二度停学(遊)処分一週間及び退学勧告を受け、皆に別

れの挨拶をさせられた事があつた。その度に母に連れられあやまりに行つた。母の気持ちとしては二人の姉がまともなので、自分だけの責任ではないと思つていたかもしれない。幼稚園の時

は特に大橋牧師のお祈りで全て許して頂いた。漸く幼稚園を卒業した時、鉢に入つた花を一人一人貰つて撮つた写真が今でも懐かしい。小学校は又自由にやらせて貰つた。低学年では國語の本をまともに読める人が余りいなかったが、ある

分一人で入学願書を持参し、次の日から毎日通い始めてしまった。姉がこれを持って行けば入園できると母に話していたのを聞き、白紙のままこっそり持つて行ってしまったのである。今思えば、当時の大橋牧師夫人の寛大な処遇に感謝している次第です。それ以後自由に遊ばせて頂き度が過ぎて幼稚園で二度、小学校で二度停学(遊)処分一週間及び退学勧告を受け、皆に別れの挨拶をさせられた事があつた。その度に母に連れられあやまりに行つた。母の気持ちとしては二人の姉がまともなので、自分だけの責任ではないと思つていたかもしれない。幼稚園の時

は特に大橋牧師のお祈りで全て許して頂いた。漸く幼稚園を卒業した時、鉢に入つた花を一人一人貰つて撮つた写真が今でも懐かしい。小学校は又自由にやらせて貰つた。低学年では國語の本をまともに読める人が余りいなかったが、ある

分一人で入学願書を持参し、次の日から毎日通い始めてしまった。姉がこれを持って行けば入園できると母に話していたのを聞き、白紙のままこっそり持つて行ってしまったのである。今思えば、当時の大橋牧師夫人の寛大な処遇に感謝している次第です。それ以後自由に遊ばせて頂き度が過ぎて幼稚園で二度、小学校で二度停学(遊)処分一週間及び退学勧告を受け、皆に別れの挨拶をさせられた事があつた。その度に母に連れられあやまりに行つた。母の気持ちとしては二人の姉がまともなので、自分だけの責任ではないと思つていたかもしれない。幼稚園の時

日公立校から保田さんが転校してきて、本場にしようずに読むのでよく読まされていたのを覚えている。公立と私立の違いかなんて当時は思った。今はどうか分らないが、その頃英会話の授業があり、女性の外人が動物の絵を黒板に貼ったりし乍ら教えてくれたが、ある日男子だけでさぼって海に行ってしまった。晴れた日で海が素晴らしく、皆伸びのび遊び、小学生にして早くもさぼる事を経験したが、後で大変叱られた事を今でも覚えてる。それでも現在ソニー勤務で海外出張をするが、色々失敗はあるがうまく切り抜けてきたのも早くから英語に接していたからかもしれない。よく悪い事を見付からずきた。

当時皆の行動範囲は広く、野球が大変盛んで、平塚の小学校迄我々だけで遠征に行き勝ってしまった事もあった。又今よりは外で遊ぶ事が多く(私の子供は、フア

ミコン気狂いであるが)、色々悪い事もやった。松本君(現在カナダ人)とは湘南電車を停めたり、桃畑に潜入したり、スイカにパチンコで石を打ち込んだりした。そのためか今は税金を多く取られ、松本君の分迄払わされている感じがする。通学路はたった四百メートル位しかなかったが、途中で色々な想い出がある。日本のベートルベンと言われた作曲家の箕作秋吉先生が住んで居られた。ある日、先生の門の前で、当時はやっていた「カンカン娘」を出てこられて「まちぼうけ」を覚えて下さった。随分難しかったが先生があまり一生懸命だったので覚えざるを得なかった。「歌謡曲何ぞぞ!!」だったのだろう。

後日「まちぼうけ」の替え歌を先生の前で歌ったら、大笑され別の曲を又教えられそうになったので、あわてて帰ったことがあった。丁度今NHKで「たけし

くんハイノ」を放送しているが、懐かしく見られている方が多いと思われる。十二字×八十行(十一二十行)、横山先生から久しぶりのらしからぬお達しにつき失礼させて頂きます。

小学校時代

S 36卒 樋口 寿利

七月十三日の日曜日、小学校の同窓会(クラス会)を開きました。一時期は毎年、開いていましたが今回は五年ぶりのクラス会という事で楽しみに出席しました。卒業の時20〜30人位だったクラスの内、12人が集まり、昔の話に花を咲かせ、夕刻より全員で二次会として茅ヶ崎市内の寿司屋さんで場所を変え、その店内より電話で、一次会に来れなかった仲間数人を呼び、総数で17人ものクラスメイトが楽しく飲み、食べ、大声で話し合い、またたく間に夜となりました。

小学校を卒業して二十五

年経ち、中年の仲間入りをした我が同窓生も、家に帰り、会社に出れば、真面目な顔をして生活しているのだらうと思えますが、いざ、クラス会に集まると、昔の気分になりきってしまします。

口のきき方も身ぶり手ぶりも、すべてタイムスリッブしているようです。

それ程、平和学園の小学校には思い出が多く、強烈な印象が残っています。遊んだ事、悪さをした事等々です。勉強の事は思い出しはありません。小学校の六年間は遊ぶ事によって人格を形成する時期ではないかと思えます。

最近、塾通いの子供が増えています。私が現在利用している田園都市線にも夜の九時、十時になっても塾の帰りと思われる子供達が多勢乗っています。私達が子供の頃、学校以外に塾に通うとか、家庭教師に教わるという事は、頭の悪い子供と相場は決まっていた

ようです。今は全員が学校以外に何らかの塾に通っているそうです。

こうして育った子供はどのような大人になるのでしょうか? 小学校の思い出は何が残るのでしょうか? さびしい人間になるのではないのでしょうか?

私達の育った時代と今は違うでしょうが、その差が大きいのでとまどっています。遊びが少ないために、フラストレーションがたまって、子供による家庭暴力や学校での暴力事件があるのだと思えます。

私の家にも今年の一月に子供が生まれました、男の子です。この子供が小学校に通う頃も今と同じに塾通いをしなければならぬのでしょうか?

私達が平和学園小学校で受けたような、のびのびとした教育が再び戻ってくる事を祈っております。

子連れアメリカ
思い出の旅

S 41卒 甘露地由起子
(旧姓毛利)

一年間休職し、三年間二人で貯めたお金を握りしめ、成田に立ったのは夫30才、私27才、息子0.7才の夏。その日は一足先に行く夫の見送りだった。一ヶ月後アパート決まった、車買ったという連絡にロスへ一飛び。何々の勉強に行きますとか何々の仕事を覚えに行きますとか、全く大儀名分のない私達は「何しに行くの」の問いに365泊366日の旅ですとしか答えられない。ただアメリカのフロンティアスピリッツと大自然を見に、取敢えずロスに行くのだった。ロス空港で夫はニコニコ出迎え、私も初めての土地に胸をワクワクさせ乍ら握手をかわした。車を回して来るからね、とう夫にあーあこれがのアメリカだ、ベンチシートがな、大きいんだらうなと思っ

いるうちにスーッと一台茶色のカローラが近寄って来た。まさか!!この日私達3人のアメリカ生活がスタートした。

とりあえず学生ビザで来たので、大学の英会話学校に入ることにした私達は、ベビーシッターを頼み8ヶ月間の学生生活を楽しんだ。中でもアメリカ人以外(中南米・アラビック・中国・ヨーロッパ・東南アジア)の人々との出会いは新鮮だった。日本と全く違う習慣・風土・生活様式の国の人々の考えは面白く又理解し難いものもあった。

スに戻り友人のいるメキシコへ二週間、8月18日いよいよ80日間の旅のスタート。まずは西部の旅、冷房もない相棒カローラに全財産を押し込んでいざ出発。テント生活もまだ慣れず失敗ばかり、どこ迄も続く道青い空、本当に広い広い。プロの町では私の真黒な顔がインディアンにそっくりなので、村の長老にワラベ

82年6月息子一才3ヶ月、私達はついに決心し、母に連れてもらい息子を日本に連れて帰ってもらうことにした。友人は冷たい親だの、母親失格と言うけれど、これからのハードな旅は少々無理だと思ふ。7月からの1ヶ月義姉のいるブラジルへ、英語の通じない国でのバス旅行。珍道中の数々は次回をお楽しみに。8月ロ

アラゾナのサポテンやモニユメントバレーの不思議な岩、まさに西部劇そのもの。11日間かけて一気にヒューストンへ到着した。ヒューストンでは平和の同級生の友人が、ごちそうを作ってく

9月4日南部の旅へ出発。なまりのある英語で通じない。冷たい視線が気になる。どこへ行っても旅行者に親切なアメリカ人、ここではちょっとびり苦い経験をする。9月23日東部の旅へ出発。アメリカの歴史そのものの東部はとても興味深い。メイ

フラワー号が着いたプリマスは当時の衣装をつけ観光客を楽しませてくれた。アメリカの人々は自分達の歴史にとっても誇りを持っている。セントルイス10月17日到着。200年前ここからフロ

ンティアが始まった。テント生活にもすっかり慣れ、いよいよ最後のキャンプ地ヨセシチに向かった。11月7日ロス到着。走行距離2万6千366km、使用金額3千903ドル。あれから5年、今では普通のおばさんに戻ったけれど、キラキラした思い出は心の財産です。

コンピューター人生

S 46卒 田中 冬人

俗にいう「三つ子の魂百まで」といったことが、私にもあてはまることと思ひます。又、巡り会うことの素晴らしさを、一入感じております。

平和に入学して私は、一番初めの素晴らしい先生に出会うことができました。

そして、科学的な眼を養わせて頂いたおかげで現在の私があるといっても大げさではありません。

私の眼は、つい数年前迄多くの若者がそうであるように、西欧文明に向けられていました。

大学時代に、その頃はまだ珍らしかったコンピュータに目をつけ、海外の進んだ技術に羨望の眼差しを向けているばかりでした。

念願叶って、米大手導体メーカー支社に就職する事ができ、技術の最先端に触れることができました。

憧れのL・A・サンフランシスコ、アリゾナでは、仕事以外にも、異国の文化や人々の自然との関わり方を見る事ができました。

豊かな異国で自分の育った文化を見直す事ができて、随分勉強になったものです。

が、私は幾らかの人が思うように自分の文化を見下す様なことはできません。

なぜなら、私の育った自然と平和の恵まれた環境は、

かけがえもなく素晴らしいものだったからです。

サケが自分の生まれた川のおいを決して忘れないように、そしていつかは次の世代のために必ず帰って来るように……その時になっても、平和の自然や環境が以前と変わらぬ清流であることを祈ります。

こうしてとりとめもなく筆を進めるうちに、私の平和時代の思い出がまるで昨日の出来事のように浮かびあがって来ました。

たくさんの思い出も、私の内で美化されてしまっているかも知れませんが、いずれの記憶も、ぬけるような青い空と陽ざし、さわやかな潮風と雨上がりの透明でしっとりとした空気の中にあります。

抜群の環境が育んでくれた心には、自然との関わり合いの素晴らしさを理解することのできる感性が備わります。

当時、単純な心しか芽生えていなかった小学生の私

には、先生方のおっしゃるところの愛は難しいことばかりで、よくある回想の「先生の感動的な話に感銘を受けて私も教職について」などというイメージはなく、むしろ無感動なされた子どもだったと思います。

いく人も先生方がして下さった聖書の話や宗教的な倫理感などは、不思議な響きをもつものの、小学生の私にはそれが何であるか分かるはずありません。ただただ、話の中にある不合理な論理の飛躍をひやかしているだけでした。

そんな幼稚な私の心をとらえて離さなかったのが、多くの先生の授業や自然との接し方です。

先生方の一貫した自然に對しての謙虚な考え方や、自然のとらえ方は、私のような小さなファンをたくさん作っていた事と思います。平和の先生の思想を受け継いで、今、私は技術家としての第一歩を歩み出したばかりですが、理工学部時

代に学んだ自然科学の概念よりも、その先生がして下さったお話しの方がずっと科学的だった様に思います。平和の情操教育は、今になって思えば「素晴らしい」の一言に尽きると思います。

特に、授業以外のアトラクションの良さは抜群で、公共の大量生産に比べて、多品種少量高品質と、今では半ば常識化している優秀な日本工業の特長と全く一致していると思います。

幼少時代の経験というものがいかに大切かは周知の事実ですが、これからの平和も、目先の受験にとらわれずに、本物のスペシャリストを目標にした教育を大切にして行っていた良かったと思います。

幼い頃の記憶をたどって勝手な解釈で筆をとらせていただきましたが、二十数歳の拙見のこととお許し願えれば幸いです。

私の仕事

S 46卒 紀藤 勉

私は現在、神奈川県立こども医療センターの重症心身障害児施設で児童指導員として働いています。

この重症心身障害の子供達の中には、自分の力では呼吸することさえ困難な子供もいますが、それでも毎日目を精一杯頑張っています。彼らにとっては、私達が普段何気なく行っている呼吸や食事をする事等が生きる事そのものなのです。

そして、言葉を持たない彼らは、体全体で自分の気持ちを表現します。一見、何ら反応がない様に見える子供でも、その子なりにちよっとした動きで自分の気持ちを精一杯表現している事がよくあります。

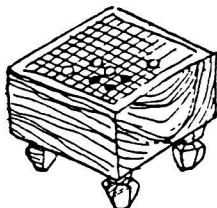
私は、彼らの外見上は分かりにくい表現をとらえ、それに対して彼らに分かる方法でどう応えてあげるかが、私達の仕事であると考

えています。

そして、このような心の触れ合いが、重症児と一緒に生活する私達にとって、最大の喜びでもあり、最も困難な課題でもあるわけですから。

私は、このような子供達に囲まれて、自分が彼らを指導するというよりも、子供達から生きているという事を教えられているような気がします。

ですから、私も子供達に負けないように精一杯頑張りたいと思います。



小学校の教室から

しぜんきょうしつ

二年 野村 明伸

先生あのね、月曜日、しぜんきょうしつにいったね。ついてすぐ、おべんとうをとべたよ。よるごはんは、カレーライスだよ。おいしかったよ。だって、じぶんたちで作ったからだよ。つぎの日、山のぼりにいったよ。山のぼりは、ころぶ人もすべる人もいたよ。ほくはころばなかつたけど、すべったよ。七お峠もいっただよ。七お峠は、ちょうじょうまではいかなかつたよ。かえてきて、キャンプファイヤーをやったよ。六年生がインディアンになったよ。たのしかったよ。

「先生の様子を見よう」といって、先生に見つかりそうになると、急いで部屋に帰って寝たまねをしたり、隠れたりしました。

(藤井伊智郎)

自然教室でのカレー作りは初めてだったし、班長や副班長に一生懸命教えてもらって、うまく作れたのでうれしかった。とってもおいしかったです。

(喜多村朋子)

三年になるとクラブ活動があります。わたしは、リーダー部に入りました。入った時は難しい曲ばかりだったけど、吹いてみると、とってもきれいだった。

(伊藤麻紀子)

ぼくらの学校

四年 井本 団契

平和学園小学校では、毎朝、朝の体操から始まり、そして礼拝、授業へとうつります。

行事では、もちつきや、

自然教室

三年

自然教室の夜間行動がおもしろかった。班のひと、

天文教室や、焼きいもや、スケートなど、ふつうの学校と少しちがいます。

遊びで、今までは、サッカーがはやっていましたが、最近、ドッチボールなどをやるようになりました。男子も女子も、上級生下級生も、みんななか良く楽しくやっています。

きょうは、夏休みの本のかし出しがあつて、一人五さつまでかりられました。

一年生から順番にかりるので、上級生になると、自分のすきな本が、少なくなってさんねんです。今年の夏休みには、たくさん遊びたいと思います。

田植 え

毎年、五年生は理科の学習で、実際に田植えを経験します。

「わたしは田うえをはじめてやったけど、とてもおもしろかった。自分でははじめてにしては、うまいなあと思いました。わたしは田うえはかんたんだと思いましたが、どろんこの中に入るときは、ぬまにすいこまれると思いました。」

(雀部レン)

「きのうと今日、田うえをした。ねとねとしていたのですごくよかったです。いねは一カしょにうえるのに四つ入れる。最初の方はすぐたおれたりしてむずかしくなりました。けれどだんだんたおれなくなってきました。あとの方はおもしろくなつた。余ったいねがたくなつた。」

(岩倉具威)

横山先生に、いっぱいちょうだいよーとたのんだけど、いじわるだからくれなかつた。

理想の修学旅行とは

六年 林 真理子

第一希望として、私は四国に行つたことがないので、四国へ行って、徳島の佐藤先生のいなかへ行きたいです。

もちろん佐藤先生がこなればいけなけれど、そして、佐藤先生の実家に行つて、お父さん、お母さん、まさよちゃん(妹)に会いたいと思います。

私の予想だと、まさよちゃんは、佐藤先生そっくりだと思ひます。それはどこかというところ、ほつべたが赤

いことを気にしているらしいですけど、きつとまさよちゃんも気にしていると思ひます。

佐藤先生はよく、「徳島って、とてもいいところよ」と言うので、私はすぐ行くきたくなります。

だから一度でいいから、徳島へ行きたいのです。

第二の希望は、江ノ島です。

学校から江ノ島まで自転車で行って、浜べで遊んだり、自由にしたりして、十泊くらゐするのが好きです。どうしてかというところ、友達と楽しい夜がいっぱいできるからです。

真能先生の新住所

大分県別府市小倉 一の二組

- その他、つぎの先生方の住所知りませんか。
- 杉田行光 原田みな
- 井鍋まさえ 佐藤 徹
- 内野康久 松本栄二
- 中島皓夫 天野美代子
- 斎藤朝子
- その他住所が変わったら連絡を。
- 事務室 伊藤美保子宛

テレビの裏側で

45年卒 坂口タネ

私が平和学園小学校で学んだのは四年間ほどで、その後、横浜のミッションスクール、上智大学へと進んだのですが、今振り返ってみると、平和での子供時代が一番楽しい思い出として残っています。自然教室で金時山に登ったこと、海辺での授業など、公立学校では与えられそうもない、実にのびのびとした環境で育ったことを感謝しています。

ところで、私は今、NHKテレビの朝の「ニュースワイド」のリポーターをしております。このことについて少し書かせていただきます。まず、こうした世界に興味を持つようになった背景について、学生時代をちょっと振り返ってみます。

上智大学では英語を専攻

しながら、国際関係に関心を持つようになり、卒業後、アメリカのサンフランシスコ郊外にあるスタンフォード大学の大学院に入りました。この時以前にも、アメリカへはよく行っていたのですが、いざ腰を落ちつけてアメリカ社会にどっぷりつかってみると、この二年間は、アメリカという国のダイナミックさに、あらためて驚かされることばかりでした。

とりわけ、アメリカ女性のたくましい活躍ぶりには、目をみはりました。今まで男性にしか開かれていなかった職種（肉体労働も含めて）にも、どんどん進出しており、日本の女性と比べて、なんと自分にきびしく、強いのだらうと感心しました。毎日、テレビで見るニュース番組には、次から次

と、バリバリとした女性キ

ャスターやリポーターが出てきます。サンフランシスコのあるテレビ局にも、日系の女性で、幅広い人気を得ているニュース、キャスターが毎晩出ていました。日本でも、数年のうちに、こうした方向へテレビ界も変わっていくのだろうな、と思っていました。

報道関係の仕事がしたい、という願いがかなって、今はNHKの報道局で仕事をしているわけですが、その舞台ウラでは、どんなことをしているのか、ちょっと書いてみます。

ニュースワイドの中の「ザ・スポット」というコーナーを担当しているのですが、仕事はまず、リサーチつまりネタさがしから始まります。担当ディレクターと相談しながら、番組のた

す。カメラマン、照明、音声、ディレクター、私の五人で車に乗り込み、何か所も取材先をまわって、インタビューをとったりします。局を午前十時に出発しても、もどってくるのは夜の七時、八時頃になってしまいます。局の中で、その日にとったVTRをざっと見て、やっ

とロケが終わります。次は、編集です。編集室に一日こもりっきりで、テープを切ったり、つなげたりして一定時間の番組につくり上げていくわけですが、この作業がなかなか骨が折れるのです。コメントづけも平行して進めるわけですが、スタッフの内の意見をたたくせながら、最終的にはプロデューサーも加わって、まとめていきます。でき上がったコメントをVTRの絵に合わせて、スタジオで録音すれば、やっ

と一本のでき上がりです。こうしてホッとするのは、夜もかなりおそくなっていることが殆んどで、一週間

はアツという間に過ぎてしまします。今でも時々、車で平和学園の前を通りかかることがあるのですが、校舎や庭が、昔と少しも変わっていないことに、本当にうれしくなります。いつまでも、この素晴らしい環境を大事にしたいっていただきたい、と思います。

「平和」の名が示しているように、平和学園にはあたたかい和らいだ空気が満ちていました。他のどの学校にもない（キリスト教主義学園も含め）家庭的な真の和らぎがありました。それは、何と言っても創立者が語り、願ったところが代々の学園長、先生方に受け継がれてきたからだと思えます。

最近、私のところに届け

平和学園での
あたたかい年月

旧職員 小林 勝利
41年〜46年

られた平和小卒業生(中学校一高校も)からの手紙の中に「来年から私の子どもも一年生になります。今の色々な小学生をみると、平和学園のあの少数の家族的な教育が大変なつかしく、本当に良かったと思っています。一つ一つがとてもしばらしい思い出です」と記されています。

十数年経っても変わることなく「すばらしい、よい思い出」であると感じられるこの卒業生の手紙が、平和学園の教育のあたたかさを、平和の空気を証明していると言えるでしょう。

その基は、「キリストの平和」であることを確認したいと願います。そこから一つ一つの教育のわざが生じ、発展していくことができると確信しています。

さて、その後の私ですが、救世軍(キリスト教団の一つ)の教職者(「士官」といいます)として十三年目を迎えています。初任地は岡山県笠岡市の

小隊(教会)長で、四年半在任、次に麻布小隊長と本部総務部を兼任、三年間勤めました。第三の地は東京京橋小隊長で二年間、大変恵まれた働きをいたしました。日曜学校が二十名位から七十名程に成長するとい

う祝福を与えられました。その頃、校内暴力やいじめ等の教育の問題が表面化し、心の教育に力を注ぐ必要を特に感じ、私の尽すことが幾分かでもでき感謝でした。

第四の任地は、士官学校(神学校)の教官で、伝道者の教育、訓練の任務についています。三ヶ月程の海外研修(イギリス)の機会も与えられました。今年四月からは、杉並小隊長としての任務も受け、兼任ということで大変忙しい日々を過ごしていますが、神と人とのために使命感と信仰により、励んでいます。

どこにあっても、平和学園のよき教育のわざの進展のため、心からお祈りを続けています。

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである。」
(マタイ 5章9節)

講堂の古いテーブル

横山 哲夫

おほえてますか、皆さん、小学校のおんぼろ講堂の古いテーブルを。お掃除の時とびのったりして遊んだで

しょう。黒ずんで、八角だか十角だかを半分にしたようなへんな形をしていたの。あれは私が平和に来た時すでにそこにあったから、林間学校時代のもの、それこそ平和の歴史より古いんじゃないかな。あれで村島先生がお話なさいました。大橋先生が聖書のお話を、大塚先生が植物の話を、楽しそうになさいました。賀川先生が平和開校の日「たこの武装解除」という有名な

お話をなさったのもあれでしょう。松本卓夫先生がピリビ書のお話、それに玉川

学園の小原国芳、自由学園から佐藤瑞彦先生も来られて、PTAに講演をして下さいました。

そのテーブルが、さすがにガタが来ちゃって、去年の秋、理科の雨宮先生と二人で修理しました。下にベニヤの厚板を二枚打ちつけ、キャスターを四個つけました。これでまた二十年くらい持つでしょう。

来年この講堂を建てかえることでしょう。できるだけ今のイメージを残してといていきますが、木造じゃできないし、多少のモデルチェンジは免れないでしょう。

でも、できるならあのテーブルは残してもらいたいと思います。林間と平和の歴史がしみこんでいる。そして一日もかかさず、そこで朝ごとに聖書の話がされたテーブルです。今年七月十六日、小学校の田村安都子先生が、そこで洗礼を受けられました。三十六年前私もここで見た。見せて下さい。

◆ 編集後記 ◆

「まだ出してないやつが二人もいる、お前らAはやれんぞ」と今さらおどかさわけにもいきません。しかも先生の方もだいぶケちゃって、同じ46年卒の田中君と紀藤君の二人に書いてもらう始末、もう編集者も交替の時期です。

それにしても「たけしくんハイ」の堀君、よくぞ書いてくれました。実はきみみたいなワルが今もワンサカいて、職員会議のたびに、あの子どもしてくれるかと若い先生に言われ、校長先生が頭をかかえてしまうようなのが何人もいるんです。でも校長先生も今度は自信持てるんじゃないでしょうか、「大丈夫ソニーならはいるよ」って。書いてくれた皆さんありがとう。学校の前通ったらちょっと寄って、元気な顔見せて下さい。横山